AKAYA PROJECT

赤谷プロジェクト地域協議会／（公財）日本自然保護協会／林野庁関東森林管理局

赤谷の森だより

2022.8.1
vol.50

赤谷の森でわかったこと

赤谷の森における ニホンジカの行動把握調査

赤谷森林ふれあい推進センター　伊藤 彰伸

トピックス

●地域と繋がる赤谷プロジェクト

環境省 信越自然環境事務所
谷川管理官事務所　増田 多美

●「イヌワシが子育てする赤谷の森のハチミツ」ができました！

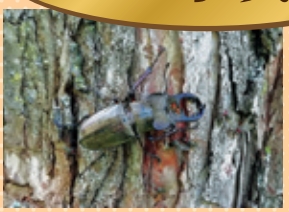
こむろ農園　小室 亮

（ヤナギの樹液を吸うオオムラサキ　撮影：赤谷森林ふれあい推進センター）

AKAYA no MORI ミニ写真館

今回のテーマ

「いきもの村の樹液に集まる昆虫」（写真：赤谷森林ふれあい推進センター）



ミヤマクワガタ(7月下旬)

ルリタテハ(7月下旬)

カブトムシ(7月下旬)

コムラサキ(7月下旬)

アオカナブン(7月下旬)

赤谷の森でわかったこと

赤谷の森における二ホンジカの行動把握調査

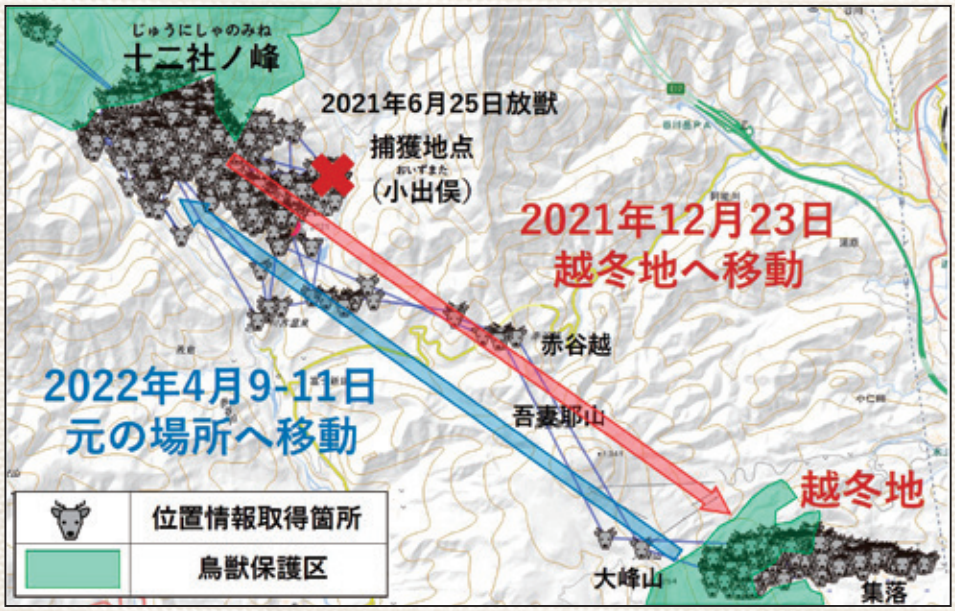
赤谷の森では、近年二ホンジカ（以下シカという）の増加が顕著です。既に一部の植生が食害を受けており、放置すれば赤谷の森ばかりでなく近隣の地域でも農林業や生態系への深刻な被害が予想されます。赤谷プロジェクトでは、シカが低密度の段階からの個体数管理を目指して、２０１７年からシカの捕獲試験を行っています。また、冬季にシカが集結する越冬地での捕獲が個体数管理には有効ですが、越冬地の所在については、これまで分かっていませんでした。そこで、赤谷の森に生息するシカの越冬地を突き止めるため、２０２１年から新たにシカの行動把握調査を開始したのでその詳細について報告します。

行動把握調査は、株式会社サーキットデザイン製のＧＰＳ首輪発信器（以下首輪という）を野生のシカに装着して行いました。調査対象としたのは、２０２１年６月24日に小出俣で捕獲した４～５歳と推定される成獣メスです。頭胴長１３２㎝、体重約50㎏で、乳汁の分泌があったことから既に子供を産んでいると考えられました。シカの行動把握調査においては、オスよりメスの方がよいとされています。理由としては、メスは行動範囲が固定的であるのに対し、オスは繁殖期になるとメスを求めて大きな範囲で動き回るので、それが不規則になるためです。

首輪は２時間に１回の頻度で衛星から位置情報を測位します。調査者は、首輪から出るビーコン（電波）をたよりにシカの半径２㎞以内に近づき、専用のスマートフォンとコントローラーを使用して首輪に保存されたデータを取得します。取得は週１回を基本に、季節移動が予想される初冬や初春はさらに頻度を増やして実施しました。取得したデータはＡＮＩＭＡＬ ＭＡＰという専用のシステムを使用することで、シカの分布や移動軌跡を地図上で確認することができます。

その結果、６月の調査開始以降、シカは捕獲した地点に隣接する十二社ノ峰という山を中心に半径約２㎞範囲で活動していることが分かりました。日中は主に峰の北西側にいて、夕刻から早朝にかけては赤谷川や小出俣沢付近まで下りて活動している日周活動も分かりました。調査開始から半年後、それまで十二社ノ峰に留まっていたシカは、12月23日の本格的な降雪のタイミングで、南東に直線距離で約７㎞離れた大峰山のふもとへ移動しました。移動経路は赤谷越を通り吾妻耶山を越えるルートで、午前６時頃に大きな移動を開始し、午後６時頃には大峰山へ到達しました。以降、冬季はそこを中心に半径約１㎞範囲で活動しており、大峰山のふもとが越冬地であることが分かりました。また、そこでも十二社ノ峰にいた時同様、日中は尾根付近にいて、夜間は近くの集落まで下りて活動していました。興味深いのは、十二社ノ峰も大峰山もそれぞれ鳥獣保護区と狩猟可能な場所の境界であるということです。銃による狩猟の危険性がある日中は鳥獣保護区付近にいて、その心配がない夕刻から早朝にかけて活発に活動していることからも、鳥獣保護区を上手く利用している様子がうかがえます。また、越冬地に設置した自動撮影カメラによる調査で、首輪を装着した個体は４頭以上の群れで行動していることも分かりました。越冬後は４月９日の午後２時頃に大きな移動を開始し、12月の移動時とほぼ同じルートを経由して、11日の午前10時頃には元いた十二社ノ峰に戻りました。調査は現在（２０２２年６月14日）も継続中です。

まだ１頭とはいえ、赤谷の森に生息するシカの越冬地や移動経路は、赤谷の森でシカを低密度に維持するための捕獲対策において貴重な情報です。今後は、調査する個体数を増やすとともに、赤谷の森の別なエリアに生息する個体についても調査を実施し、季節移動に関する更なる知見の収集に努めていきたいと思います。



▲GPS首輪発信器を装着したニホンジカの移動軌跡（2021年６月25日～2022年６月14日）

株式会社サーキットデザイン：ANIMAL MAP
※地図は国土地理院地図を一部加工して使用しています。

赤谷森林ふれあい推進センター
伊藤（いとう）　彰伸（あきのぶ）

地域と繋がる 赤谷プロジェクト

環境省　信越自然環境事務所
谷川管理官事務所
アクティブ・レンジャー
増田（ますだ）　多美（たみ）さん

自己紹介と普段取り組んでいること（仕事含む）を教えてください。

環境省の現地事務所である谷川管理官事務所で国立公園管理官の補佐をしています。上信越高原国立公園の谷川地域と苗場地域を管轄し、登山道の現況や利用状況の把握、情報の収集・発信、公園内の巡視、保全活動、施設整備などを行っています。

赤谷プロジェクト関係者と知り合った経緯を教えてください。

仕事を通じて知り合いました。赤谷プロジェクトの事務局会議や企画運営会議に参加させていただいているほか、自然情報の交換、三国山シカ柵設置のお手伝い等をさせていただいています。また、環境省が整備し、2021年6月にオープンした谷川岳インフォメーションセンター内の谷川岳周辺の動物や植物を解説している展示パネルに掲載の写真の中には、赤谷プロジェクトから写真資料を提供いただくなどお世話になっています。

今後、赤谷プロジェクト関係者と行ってみたい企画等がありましたらお願いします。

赤谷プロジェクトも国立公園も生物多様性を保全するという共通の目標がありますので、谷川岳インフォメーションセンターの特別展示を一緒に企画できたらいいなと思っています。

赤谷プロジェクトへ一言！（何でもOK!）

今後もいろいろとお世話になるかと思いますが、どうぞよろしくお願いします！

▲白毛門から見る谷川岳

▲ゴミを拾いながらの巡視

▲昨年度谷川岳インフォメーションセンターで実施した特別展 AR 写真展

「イヌワシが子育てする赤谷の森のハチミツ」ができました！

▲イヌワシが子育てする赤谷の森のハチミツ

こむろ農園　小室（こむろ）　亮（まこと）

赤谷プロジェクトでは「生物多様性の復元」と「持続的な地域づくり」を目指し、様々な活動を行っています。

「持続的な地域づくり」では地元の事業者や住民の方々と連携し、赤谷の森の資源を持続的に活かしたモノやコトを作り、地域経済を循環させる仕組みづくりを行っています。例えば、赤谷の森のカスタネット、精油、米づくり、最近ですと間伐スギのビールなど。現在は、桐の苗の植栽を実施したりと新たな取り組みも始まっています。

そんな中、この度赤谷の森の麓、赤谷地区で養蜂を営む阿部さんの協力を得て、「イヌワシが子育てする赤谷の森のハチミツ」が完成しました。このハチミツは、野山に咲くいろいろな花から採れた百花密です。

イヌワシは森の豊かさの象徴と言われます。このハチミツが、赤谷プロジェクトの活動や、みなかみ町の豊かな自然環境について知ってもらう一つのきっかけになると嬉しく思います。もちろん、赤谷の森やその周辺の花々から集められたハチミツは、その土地の風味豊かな味わいがぎゅうっと凝縮され、まろやかなコクが楽しめ美味！是非一度手に取ってみてください！

色々な活動をしているよ！

赤谷プロジェクトの活動 トピックス

R4.2.16-17

関東森林管理局　森林・林業技術等交流発表会

赤谷センターからは、「センサーカメラによる哺乳類の長期モニタリング調査」と「ニホンジカの低密度管理に向けて（第3報）」の発表を行いました。

R4.2.17

赤谷プロジェクト - みなかみ町連携会議

みなかみ町と赤谷プロジェクトの連携強化のため、これまでの取組や今後の方針についての紹介と意見交換を行いました。

R4.3.24-25

炭焼き

2021年3月に改修を終えたいきもの村にある炭焼き窯を使って、皮むき間伐で生じたスギ材の炭焼きを行いました。

R4.4.25

クロサンショウウオの卵塊調査

湿地に生息するクロサンショウウオの生息数を把握することを目的として、卵塊数の計測調査を行いました。

R4.5.15

ウサギの糞粒調査

イヌワシの餌となるノウサギの生息数を把握することを目的として、狩り場試験地での糞粒数の計測調査を行いました。

R4.5.21

赤谷の森自然散策（春）

悪天候で赤谷の森の散策はできませんでしたが、代わりに谷川岳の一ノ倉沢を散策し、猿ヶ京温泉での民話と紙芝居を堪能しました。

R4.5.28-29

放送大学面接授業

放送大学の面接授業「国有林野の生物多様性復元事業」が開催され、赤谷センターも講師として参加しました。

R4.6.4

6月赤谷の日「南ヶ谷湿地の保全活動」

南ヶ谷湿地の水位低下を抑えるための保全活動として、水路に設けた堰の改修や湿地内の浚渫、葦の刈り払いを行いました。

R4.6.10

新治小学校6年生の森林環境教育

赤谷の森の歴史と自然環境の保護について学んでもらうことを目的として、旧三国街道での森林環境教育を行いました。

赤谷プロジェクト、って？

赤谷プロジェクトは、人と自然の共生と持続可能な地域づくりをめざして活動しています。地域、自然保護団体、国有林管理者という立場の異なる三者が共に活動するという、全国的にもめずらしい取組です。

活動地域は、群馬県みなかみ町北部、新潟県との県境に広がる約1万 ha（10km四方）の国有林。ほぼ中央に赤谷川が流れることから「赤谷の森」と呼んでいます。

植物や生き物の調査・研究、環境教育、研修の受入れなど、活動はさまざま。毎月第一土曜日に行われる「赤谷の日」には、県内外のサポーターが調査や体験学習などを行っています。どなたでも参加できますので、お気軽にお問い合わせ下さい。

※トピックスの詳細は　赤谷森林ふれあい推進センター　検索

赤谷プロジェクトサポーター募集！

（たくさんの笑顔がまってます（^o^）／）

赤谷プロジェクトは、一緒に活動に加わっていただけるサポーターを募集しています。活動の中で研修の機会を豊富に用意しているため、自然や野外活動の知識や経験がないと心配される方も、学びつつ活動に参加できます。

■お問合せ先
（公財）日本自然保護協会：萩原

赤谷プロジェクトについて詳しく知りたい方はこちらもご覧ください。

林野庁関東森林管理局赤谷森林ふれあい推進センター　http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya_fc/

この情報誌は、間伐材利用の紙を使用しています。

赤谷プロジェクト地域協議会
TEL 0278-25-8777
※『森のおもちゃの家』内
理事　本多　結
メールアドレス y-honda@takuminosato.or.jp

（公財）日本自然保護協会【NACS-J】
TEL 03-3553-4101
プロジェクト担当　萩原　正朗
メールアドレス akaya@nacsj.or.jp

林野庁関東森林管理局 赤谷森林ふれあい推進センター
TEL 0278-60-1272
所長　上野　文紀
http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya_fc/index.html
メールアドレス ks_akaya_postmaster@maff.go.jp